

◆ 研究部 ◆

全連小山口大会への橋渡し

研究部長

田村博孝



五年間継続することになる研究主題「新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」も、二年次を迎えた。副主題も「志を高くもち 未来へ向かって共にたくましく生きる子どもを育てる学校経営の推進」と改め、来年度の全連小山口大会へ向けての歩みを着実に進めている。

本年度、岩国市で開催された山口県小学校長会秋季教育研究大会は、例年と異なり、十三の分科会で研究発表・協議を行った。来年度の全連小山口大会をにらみ、同様の分科会・研究課題の設定で、運用等を経験してもらう意図もあったからである。研究部の大会運営委員会では、十二月に会議を開き、会員の方々の気づきを基に、準備や運営の問題点等について検討を行った。全国大会に生かすことと県大会の改善に関することを分け、今後につなげていくことにしている。ちなみに次年度の大会では、各分科会のお世話を、本年度担当された支部にお願いする予定

になっている。

中国地区小学校長教育研究大会島根大会は、十一月に松江市で開催された。本県からも多くの会員の方が参加されたが、この大会も十三分科会で運営されていた。全連小山口大会は、中国地区小学校長教育研究大会山口大会を兼ねており、滑らかに接続できるようにとの配慮がなされていたわけである。本県からは、研究・研修部会で柳井支部が、健康・環境部会で長門支部が、提案発表をされた。さらに、柳井支部には、全連小埼玉大会でも発表していたといっている。これらの大会を通して経験されたことが、全連小山口大会の運営で生かされるよう期待したい。全連小山口大会は、全国から約二六〇〇名の参加者を見込んでいる。山口県を代表して発表される岩国、周南、下関の各支部だけでなく、全支部をあげておもてなしをすることとなるが、これを機に会員の心が一つになるよう願っている。

各 専 門 部 か ら の 報 告

◆ 対策部 ◆

未来を拓くたくましい「やまぐちっ子」の育成に向けた提言を

対策部長

磯部昭彦



本年度も各支部の校長先生方の貴重な御意見を参考にして、提言書の作成に取り組んできた。また、中学校長会や教育関係諸団体と連携しながら、教育行政と学校が力を合わせ山口県教育を充実させるという視点で、提言書を作成した。

進教員の活用の四つである。この四つのキーワードのベースには、県教委が本年度重点的に進めている「学力向上、教職員の人材育成、コミュニティ・スクールおよび地域協育ネットの推進」の三つの柱がある。

山口県教育委員会においては、めざす「やまぐちっ子」の姿として、①高い志をもち、未来に向かって挑戦し続ける人、②知・徳・体の調和がとれ、他者とのつながりを大切にしながら力強く生きていく人、③郷土に誇りと愛着をもち、グローバルな視点で社会に参画する人」の三つを設定し、山口県らしい教育の推進を図っています。山口県小学校長会としても、県の教育目標の実現に向けて、一丸となって努力しているところである。

全国的には財務省が、小学校一年の三十五人学級を四十人学級に戻すことよって、幼児教育の無償化を実現したいという見解を示した。しかし、文科省をはじめ全連小など各方面から批判が相次いだ。批判の多くは、「そもそも日本の学校の一学級当たりの人数が、OECD平均よりかなり多いこと」、「教職員の多忙さ」等で、この多くの批判により財務省は今回は四十人学級の復活を見送った。

提言書に新たに加えた「キーワード」は、事務職員における新しい職種（事務長）の配置、防災教育の推進、ミドルリーダーの育成、英語教育推

今後は、全国的な動きもにらみながら、未来を拓くたくましい「やまぐちっ子」の育成に向けて、校長会として努力すべきことは何か、教育行政に提言すべきことは何かを明らかにすることで、校長会の存在感を示していきたいと思う。